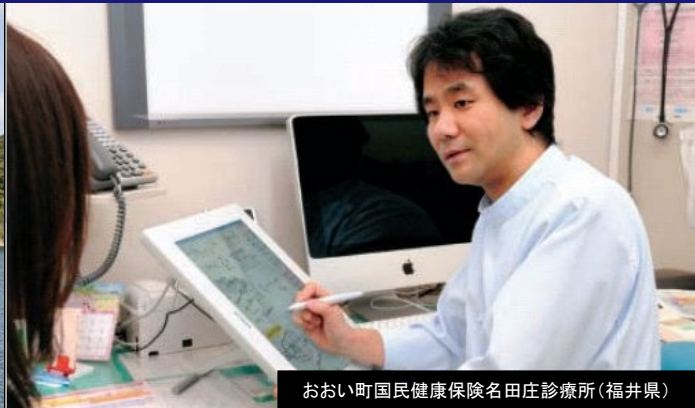




隠岐島前病院(島根県)



おい町国民健康保険名田診療所(福井県)



八戸市立市民病院(青森県)

応募期間

2022年

3月14日(月)~5月19日(木)

入賞者を **地域医療プレキャンプ in Jichi** に
ご招待!

自治医科大学 2022年度 高校生小論文・スピーチ動画コンテスト

テーマ「世界に誇れる日本の地域医療のために、わたしがやりたいこと」

「地域」という言葉には、都会も地方も含まれます。そして日本のみならず、世界のあらゆるところが「地域」です。地域医療は、その地域に生きる人たちにとって安心して生きるために不可欠なものです。国連において採択されたSDGsにおいても、目標3として「すべての人に健康と福祉を」と定めています。

あなたが今生きている、そして今後生きる地域の医療は、あなたが主体的に参加する事で変わっていきます。今、そして将来の理想の地域医療に向けて、高校生のあなたはどのように関わっていきたくて考えていますか？世界に誇れる日本の地域医療のために、あなたの考えを教えてください。

大賞(小論文部門・スピーチ動画部門 各1名)

図書カード10万円分

優秀賞(若干名)

図書カード5万円分

入賞(両部門総計20名)

図書カード千円分

佳作(80名)

図書カード千円分

※大賞・優秀賞は
入賞者の中から選考
し、表彰式にて発表
します。

5/19〆切

高校生
小論文・
スピーチ動画
コンテスト

7/28~29

地域医療
プレキャンプ
in Jichi

(入賞者20名)

自治医科大学

年度内

読売新聞主催
「高校生向け
医療体験プロ
グラム」と連携し、
地域医療の現場
に派遣

(若干名)

地域医療の最前線



自治医科大学
Jichi Medical University

後援：読売新聞東京本社

■問い合わせ先

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1

自治医科大学 学事課「小論文・スピーチ動画コンテスト」係

Tel : 0285-58-7045 Fax : 0285-44-3625

E-mail : jichinyu@jichi.ac.jp



2022年度 自治医科大学 高校生小論文・スピーチ動画コンテスト

このコンテストは、次世代を担う高校生の皆さんと一緒に、身近な地域医療のあるべき姿を考えたいとの思いから始めました。入賞者を地域医療プレキャンプに招待します。さらに入賞者から選抜された方は、本学卒業生のもとで行う医療体験プログラムに参加できます。(日程・派遣先は別途調整。2021年度は隠岐島前病院(島根県)・八戸市立市民病院(青森県)・おおい町国民健康保険名田庄診療所(福井県)とWebセミナーを実施。)

【テーマ】世界に誇れる日本の地域医療のために、わたしがやりたいこと

【応募資格】高等学校に在籍している生徒(1~3年生)

【募集内容】

- ・小論文: 文字数1,200字以内の上記テーマに関する小論文。
- ・スピーチ動画: 上記テーマについてのスピーチ風景*(90秒以内)を撮影した動画。
*白板やパソコンなどを使用せず、口頭のみで説明を行って下さい。

【募集期間】

・2022年3月14日(月)~5月19日(木)

【応募方法】

- ・オンライン(小論文・スピーチ動画)もしくは郵送(小論文のみ)での応募を受け付けます。
※詳細は自治医科大学ホームページ内の「高校生小論文・スピーチ動画コンテスト」ページの手順に従って応募してください。

【注意事項】

- ・応募は、1名につき「小論文」が「スピーチ動画」のどちらか一方のみとします。またグループでの応募は認めません。
- ・応募作品は、応募者本人が日本語を用いて行った作品で未発表のものに限ります。
- ・本コンテストへの応募作品を他のコンテスト等へ重複して応募することは認めません。
- ・応募作品の著作権は、自治医科大学に属します。
- ・本コンテスト入賞者の中から大賞・優秀賞を選考するため、本学での地域医療プレキャンプへの参加は必須となります。また、医療体験プログラムへの選考を希望する方についても、プレキャンプへの参加は必要となります。
- ・プレキャンプ参加に伴う交通費、宿泊費は大学が負担します。(交通費は、大学旅費規程に基づき、高校最寄りの公共交通機関から大学までの旅費を支給。)
- ・医療体験プログラムへの参加は任意です。詳細は入賞者にお知らせします。
- ・応募作品の中で他の著作物を引用する場合は、出典を明らかにしてください。
- ・他の著作物からの盗用(全部、一部)が確認された場合は、失格とし、所属高校にその由伝える場合があります。
- ・小論文に図表を付ける場合、2つ以内とします。図表のタイトル、参考文献一覧などは、字数に含みません。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、代替プログラムの実施等、内容が変更となる場合がございます。

【入賞者の発表】

- ・自治医科大学ホームページで計20名の入賞者を発表し、本人には郵送でお知らせします。(6月下旬~7月予定)

※入賞者の氏名・学校名・学年および作品を公表することをあらかじめ了承してください。

【表彰式・地域医療プレキャンプ in Jichi】

・2022年7月28日(木)~29日(金) 場所:自治医科大学

審査委員長



永井 良三
自治医科大学 学長

1974年 東京大学医学部卒業。医学博士。1983年 米國ハーモント大学留学。2003年 東京大学医学部附属病院病院長。2012年より現職。2019年より宮内庁皇室医務主管。ヘルツ賞、日本医師会医学賞など多数受賞。

特別審査員



武藤 真祐
医療法人社団鉄祐会 理事長

1996年東京大学医学部卒業。2014年 INSEAD Executive MBA。東大病院、三井記念病院にて循環器内科に従事後、宮内庁で待医を務める。東京医科歯科大学医学部臨床教授、第2回イノベーター・オブ・ザ・イヤー、武見奨励賞受賞。



本田 麻由美
読売新聞東京本社
医療部 次長

医療情報部、社会保障部などで主に医療・介護の取材を担当し、認知症や在宅医療の企画を手がけてきた。2002年に乳がんが見つかり、治療を続けながらコラム「がんと私」を朝刊で6年間連載し、国内外の医学記事賞を受賞。厚生労働省厚生科学審議会委員、東大大学院非常勤講師(医療コミュニケーション学)なども務める。



町 亞聖
フリーアナウンサー

1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、報道キャスター、記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。2011年にフリーに。母の介護、母と父をがんて亡くした経験をまとめた著書「十年介護」(小学館文庫)は大きな話題を呼んだ。文化放送、ニッポン放送で番組を持つ他、医療、介護問題についての執筆活動も行う。

審査員 自治医科大学教員